

今年、初となった台風17号の出水による高山ダムの防災操作 ～高山ダム下流の木津川（有市地点）の水位を0.8m低減～

平成24年9月30日に台風17号の接近により、淀川水系名張川の独立行政法人水資源機構が管理する高山ダム流域では、午前7時の降り始めからの総雨量が147mm（最大時間雨量35mm）に達し、ダムへの最大流入量は毎秒1,358立方メートルを記録しました。

この降雨による出水に対し、ダム下流の木津川沿岸の洪水被害軽減のため、国土交通省淀川ダム統管理事務所長の指示により、ダムからの最大流下量を毎秒500立方メートルとする防災操作*を実施し、ダムがない場合と比較した場合、ダムから下流の有市水位観測所付近の河川水位を0.8m低減したものと推定され、下流河川の洪水被害軽減に効果を発揮しました。

※『防災操作』とは、大雨などによりダム湖に流れ込む洪水の一部を貯水池に溜め込み、洪水を小さくして、ダム下流の河川に流すことを言います。

※今回の発表は速報値であり、今後の調査等により数値等が変わることがあります。

平成24年10月2日

国土交通省 近畿地方整備局 淀川ダム統管理事務所
独立行政法人 水資源機構 木津川ダム総管理所

発表記者クラブ

学研都市記者クラブ

問い合わせ先

独立行政法人水資源機構 木津川ダム総管理所 副所長 佐々木 正夫

住 所：三重県名張市下比奈知2811-2

電 話：0595（64）8961（代表）

国土交通省 近畿地方整備局 淀川ダム統管理事務所 副所長 井上 日誌男

住 所：大阪府枚方市山田池北町10番1号

電 話：072（856）3131（代表）

今年、初となった台風17号に伴う
出水と高山ダム防災操作の効果について

～高山ダムの下流、木津川（有市地点）の水位を0.8m低減～

台風17号の接近により、9月30日7時頃より降り始めた降雨は、淀川水系名張川の高山ダム（京都府相楽郡南山城村）上流域では、30日15時から16時の1時間の雨量が最大35mmを記録し、総雨量は約147mmに達しました。

この降雨による出水により、ダムへの流入量が増加し、30日19時30分に洪水量（毎秒1,300立方メートル）に達したため、防災操作を開始しました。

この防災操作ではダム下流の木津川本川の状況、ダムの貯水容量等を考慮し、国土交通省淀川ダム統合管理事務所長の指示により、ダムからの流下量を毎秒500立方メートルとし、木津川沿岸の洪水被害軽減のための洪水調節操作を行いました。

今回の防災操作の概要

総雨量	ダムへの流入が最大となった時刻	同時刻におけるダムへの流入量	同時刻におけるダム流下量	ダムに貯留した量
147mm	平成24年9月30日 19時50分	毎秒1,358m ³	毎秒736m ³	毎秒622m ³

この防災操作により、ダムから下流約8kmの有市水位観測所付近では、ダムが無い場合に比べて河川水位を約0.8m低減したと推定され、ダム下流の洪水被害低減に効果を発揮しました。

高山ダムでは、今後も治水・利水の両面でダム管理に万全を期し、ダム効果発現に努めて参ります。

<参考> 高山ダムにおける管理開始以降の最大と直近の出水記録

順位	記録年月日（原因）	総雨量	最大流入量
1位	S57. 7. 31～8. 4（台風10号）	471mm	毎秒2,765m ³
5位	H21. 10. 7～8（台風18号）	240mm	毎秒1,801m ³
11位	H23. 8. 31～4（台風12号）	511mm	毎秒1,324m ³

高山ダム下流位置図



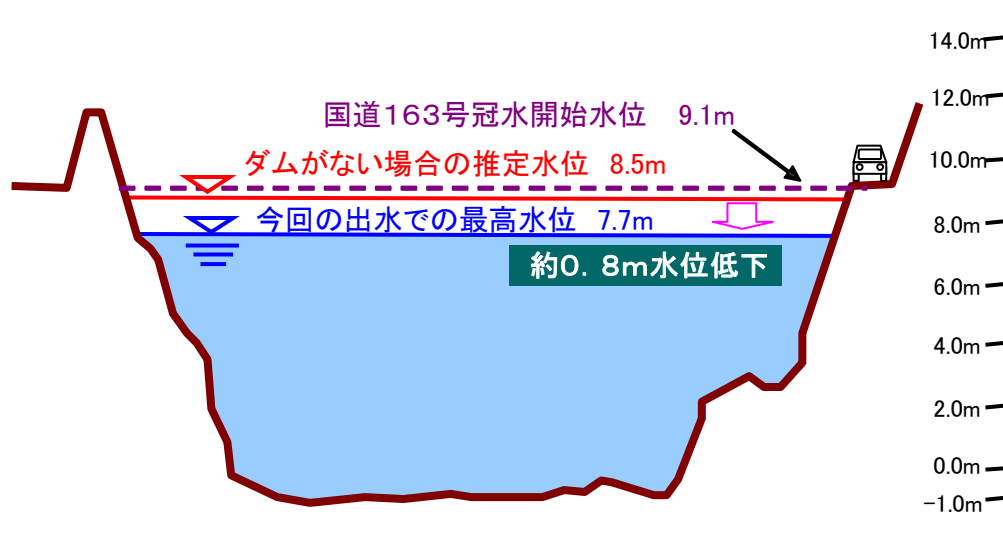
淀川流域平面図



台風17号に伴う高山ダムの防災操作効果

高山ダムの防災操作状況(有市地点)

※高山ダムから約8km下流(木津川 39.8kp地点)



ダムにより約0.8mの水位低減効果がありました。



高山ダム防災操作概要図(平成24年9月30日 台風17号による出水)

